



～わたしたちのまちのシンボル・パーク 相模大野中央公園～

み
す
つ
け
た
う
ん

住民の手でパーク・マネージメントを!

相模大野駅より徒歩4分。旧米軍医療施設跡に生まれた相模大野中央公園は、このまちのシンボル公園です。新宿よりわずか30分の駅前近く、商業施設だけでなく、相模女子大学など教育施設、グリーンホールや図書館という文化施設と隣接するというロケーション。まちづくりのなかで大きな役割をになう公園として、あらためて見つめなおしてみました。

昨年12月には、相模大野周辺商店会連合会が地域活性化・文化都市の視点を生かしたパーク・マネージメント計画を求める要望を市に届けました。4からは、公益財団法人都市整備公社がみどりの協会と一体となり公園の指定管理者となります。いろいろな立場のさまざまな意見を出し合うなかで、もっと「わたしたちの公園」になったらステキ。公園をステキにするのは、わたしたちです。

●相模大野のロケーションだからこそ 震災のときになう公園の役割 ～3月9日(日)開催の第3回炊き出しグランプリ～

3年前の3.11、小田急線の乗換駅である相模大野駅には、帰宅困難者およそ 700 人があふれたといわれています。相模原は関東平野の西北の端っこに位置し、都心で直下型大地震が起きたとき、周辺に位置する相模大野が避難の拠点となることは、想像できることです。これまで仙台で行われてきた〈炊き出しグランプリ〉の開催場所として相模大野が選ばれたのは、そうした役割を見こしてのことでしょう。

3月9日に〈炊き出しグランプリ〉の会場となった相模大野中央公園は、この役割を具体的に想像する機会となったものでした。わたしたちは、憩いの場としてだけでなく、公園の持つ役割に気づき、より公園運営に関心を寄せていく必要があるように思います。

●地域市民でつくる 暮らしのなかの公園



現在、年間通して大きな公園利用は「もんじえ」「かぼちゃまつり」など数回。相模大野事業者にとっては商業活性化の期待も募る公園利用ですが、住宅とも接する公園利用にはおのずと制約もあるでしょう。常設ステージがあれば地域の文化発表の場としても役立つのでは、と提案されている「鼎」の店主・山岡さんも「大切なことは、いろいろな意見を出し合ってみんなの公園にしていくこと」と語ります。パーク・マネージメントの立案には、この地域の市民による合意形成の力が試される気がします。



炊き出しグランプリ出店の様子

●炊き出しグランプリ会場インタビュー 安心をつくる 地域からの出店

この日、審査員特別賞を受賞したのは、小田急ホテルセンチュリー相模大野さん。ホテルは暮らしのノウハウをお持ちの業種。いざというとき、地域に果たす役割を意識している様子はレモネードに身体を温めるシナモンを加えたドリンクを用意するところからも感じることができました。こうして公園に出店するお店の実力は、地域の安心をつくるもの。ひたすら感謝です。



高齢者や幼児に優しいポトフで審査員特別賞のセンチュリーさん

割烹かつまささんも「もんじえ」や「かぼちゃまつり」とは違う「炊き出し」という体験づくりの大切さを語ると同時に、このような取り組みができる公園があることの意義に触れてくださいました。「もっと暮らしに入り込んだ公園の活用もあると思いますよ」と。

公園を散策しながら、この公園ができたところ、石を敷いた舗道にベビーバギーの車輪をとられて「バギーも押せない公園」と怒りまくっていたことを思い出しました。文句をいうんじゃなく、提案すればよかったんだと遅まきながら気が付いた取材でした。



魔法のテーブルを囲んで
ひとと出会う
春に

写真：相模大野中央公園（2014年2月撮影）

ここでずっと暮らしたい。それは、ささやかだけど、努めなければ叶えられない願い――。

128人に聞きました

ここでずっと暮らしたいですか？



※大野南エリア内にて、無作為に聞き取りをさせていただいた方のコメントを掲載しています。
また、2月11日に開催された「ユニコムまちづくりフェスタ」参加者に会場でも聞き取りを行いました。
※文字の大小、レイアウトは、コメント内容に関係なく行っています。
※いただいたすべての回答は、NPO法人ここぞたんのHPでごらんになることができます。



若い人に意外と「ここで暮らしたい」という回答が多かった。若いうちにいろんなところででているんな体験をすればいいのになあ…。

87人 はい

故郷なので愛着がある。とくに南口は閑静でいい！ (30代男性)

くらしやすい。交通の便もいいし。 (20代男性)

家族みんなが大野に住んでいます。 (30代女性)

母がいるので、母とずっといっしょにいたい (40代女性)

10年以上住んで、住みなれたまちだから (40代女性)

便利でくらしやすいし、実家が近くて安心。 (30代女性)

都心にも近く自然が多い。程よい都市空間となっている (20代男性)

程良く栄えていて、買い物に便利。急行も停まりイベントも色々ある。
谷口台小学校の三年生が作った相模大野の唄で再確認した。
小児医療証が15歳迄あれば助かります (30代女性)

長男なので義務かな、いや、権利かな (20代男性)

孫・子の代までずっとくらし続けてほしいよ。
愛着があるからね (60代男性)

このまちのつながりのなかで暮らしていきたい (70代女性)

自分が活動している拠点。死ぬまでいたい (70代女性)

歳をとったので、もう動きたくない (60代男性)

子育てや市民活動でつちかってきた人間関係をとても大切に思うから。
そういう信頼関係はすぐにできない。
ここで、子どもたちを生んで、子どもたちにとっては故郷だし。
(50代女性)

世界でひとつの相模大野 ～ぼくらのふるさと～

作曲 稲田 勇介
作詞 相模原市立谷口台小学校 3年生

2. 相模大野のまち イベント盛りだくさん

どれも楽しくて 大好きなお祭りさ
もんじえ祭りでは ジャズの生演奏が
心に響いて とてもしびれるね
陽気に仮装して ハロウィンパーティーへ
ふるさと祭りでは 大盛りかき氷

※世界でひとつだけのぼくらのふるさと
明るい笑顔いっぱい大好きなまち 相模大野

3. 相模大野のまち 良いお店がある

ラーメン屋さんは のりをおまけしてくれた
焼き立てパン屋さん 優しいにおいがする
揚げパン食べて ほっぺが落ちそうだ
どこのお店も 食べると元気が出る
宇宙で一番 大好き相模大野

※くりかえし

5. 相模大野のまち この町の未来

思いやりたくさん 助け合う人 たくさん
まちにはぎやかで 人もかがやいている
みんなが 集まるまちさ
これからも大好きな相模大野 みんなで守るよ
ずっといつまでも 大切なふるさと

※くりかえし

谷口台小学校3年生が総合の時間で「相模大野たんけん隊」をつくり、
まちのいいところを見つけよう、という学習が行われました。
たんけん隊の活動をもとに作られたのがこの歌です。
1番から4番は各クラス、5番は学年全体によって作詞されました。
そのうち2、3、5番を紹介します。

わからない ということ考えたことないなあ

(30代男性)

通勤に遠いけど、住み馴れた (40代女性)

いるのならばずっといてもいいけど、
引っ越すことになったら、それはそのまま
受け入れて暮らしていける (60代女性)

米軍施設がなくなればよい (10代男性)

私は56年前、父が小田急第1期分譲と言う広告を小田急の電車のなかで見
都内からこちらに引っ越して来てからずっとこちらで住み続けております。
父の先見の明があつたのかここ相模大野は何処に出るにも地理的に便利で各商
業施設もその他の施設も充実しています。
結婚をしてもなおこの実家に住み子育ても終え父を見送り、現在は老いた母と
主人と3人暮らしとなりましたが本当にこの新町はのんびりとしていてまだ昔
からの商店も軒だけ頑張っています!!
こんな新町で私はこれから老後もずっと暮らして行こうと思っています。
(50代女性)

大野の外に住んでいる人にも聞いてみました!

いま住んでいるところでずっと暮らしたいですか?
それとも 相模大野で暮らしてみたいですか?

15人

駅から遠くて不便なのでいまのところに
暮らしたくないけど
大野に暮らしたいかは、わからない (40代女性/町田)

いまのところにも、相模大野にもくらしたくない
田舎暮らしに憧れているので (40代女性/都内)

ずっと暮らしてきて、思い出があるまちだから いまのここに住みたい (20代男性/厚木)

いまのここは各駅停車しかとまらないし、人付き合いがない どちらもいいえ (20代男性/小田急相模原)
静岡にも家があって、迷っている。便利なので都内に住む気持ち80%ぐらいかな (50代女性/都内)

相模大野、住みたい 自然があるけど都会的 (20代女性/東京)

相模大野に引っ越ししてまで住みたくない (20代男性)



放射線のある環境を生きていく
わたしたちは、ぴあ仲間。
だからこそ
むだな放射線被ばくはさげたい。
こどもたちには、とくに。



むだな医療被ばくをさける



Note① 福島原発事故以来、わたしたちは放射線と共に生きる時代を迎えています。もちろん、これまでも自然放射線というものはありました。しかし、人工的な被ばくが日常的なものになってしまった以上、生涯被ばくをできるだけ少なくする工夫が必要です。放射線は、なくなりません。被ばく線量が10ミリベクトル増えると発がん率が3%増えると言われてます。

【検査の被ばく線量 参考値一覧】

※使用装置や撮影条件によって大きく異なります。
単位：ミリシーベルト

検査部位	検査方法	被ばく線量
頭部正面	単純直接撮影	0.12
頭部	CT	1.8
歯科	口内法(下顎大臼歯)	0.02
歯科	パノラマ	0.01
胸部正面	単純直接撮影	0.03
胸部正面	単純造影撮影	0.07
胸部	CT	7.9
乳房	マンモグラフィ	0.4
腹部	単純直接撮影	0.7
腹部	CT	6.8
胃	胃透視(バリウム)	3.1
大腸	注腸検査	9.2
股関節	単純直接撮影	0.39
全身	PET	4.4
腹部・胸部など	PET-CT	PET:CTの線量

「医療被ばく記録手帳」より転載。

たとえば、医療被ばくは避けることのできるもののひとつです。健康を守るために検査は必要ですが、安易な被ばく健診を避けましょう。そのためにご紹介するのがこの手帳です。名付けて**【市民版 医療被ばく手帳】**と。原子力の危険性を生涯をかけて訴えつづけた故・高木仁三郎さんを記念した**高木学校**が発行しています。代金 50円。お子さんのために1冊持つてはいかがですか？

●高木学校
〒162-0065
新宿区住吉町8-5 曙橋コーポ2階B
原子力資料情報室内
FAX 03-3357-3801

ぴあ・さぼノート

向き合うための健康ノート

Note② 放射線は目に見えません。どのような影響があるかもはっきりわかっていません。また、微量被ばく、内部被ばくと呼ばれる食べ物や呼吸からの影響が身体に現れるのには時間がかかります。臆病になりすぎずに向き合って、自分の身体を守るためにできるだけのことをしていくためのノートができあがりました。「市民と科学者の内部被ばく問題研究会 医療部会」と「子ども救援基金」が発行した**【健康ノート】**で**【資料編】**と**【カルテ編】**の2分冊になっています。【資料編】には、原発事故の経過記録から「ストロンチウム90の測定に乳歯を保存しよう」などのコラム記事や支援連絡先一覧など情報満載。【カルテ編】は切り取りできるようにしているので、家族分の記録を書き込めます。

販売代行●垂井日之出印刷所
2冊セット 800円+税
TEL 0584-22-2140
FAX 0584-23-3832



お母さんたちの不安にこたえたい。情報提供くださった牛山元美医師、市民グループ【こどもまもりたい】の活動もされている、まちのお医者さん。



健診のできる病院あります

Note③ 何よりうれしいのは、わたしたちのまちに放射線被ばくについて相談・健診してくれる医療機関のあること。

さがみ生協病院
相模原市南区相模大野6-2-11 TEL042-743-3261

こちらの病院で【健康ノート】を求めることもできます。心電図や甲状腺エコー検査など**【放射線被ばく関連健診】**を実費でもらえます。基本健診(健康ノート、問診票記入、内科診察)だけなら3000円。(要予約) 福島やその近辺にいた方は無料で健診できる上、20年間にわたり腫瘍マーカーなどを調べてくださるシステムも利用できます。頼もしいお医者さん・牛山先生がいらっしゃる病院です。

クリップ・ボード



ここぞずっと暮らしたい市民のための語り場

円卓ミーティング

第1回(3回シリーズです)

【とき】2014年6月21日(土) 13:30~16:30 受付開始13:00
【ところ】ユニコムプラザ さがみはら実習室
【参加費】無料
【申込み】6月10日締切
tel042-745-0676/fax742-0447
【主催】NPO法人ここぞっと

日ごろ、まちづくりのために活動されているみなさん。市民活動の可能性を拓き、つながっていくために、本音で語り合うためのワークショップを企画しました。

- ・市民活動にあたって、どんなことを思っ、感じている？
- ・もっと行政と組んだ活動をするにはどうしたらいいの？
- ・このまちの市民協働はどうあるべきか？

そんなことを、本音で率直に語り合い、市民活動の実力アップをはかる機会にしましょう。このまちぞっと活動していきたいと思っている方、市民活動に関心のある方、どうぞ、ふるってご参加ください。

※この事業は、さがみはら市民協働ファンド・ゆめの芽による助成金を得て開催されるものです。

ここぞっと市民相談

2014年から電話にて随時受付となります。
相談窓口 ☎ 042-745-0676

コミュニティ・カフェ『ここdeコミ』

4月20日/5月18日/6月15日
いずれも13:30~15:30
※原則、毎月第3日曜日
どなたでも出入り自由。6月はウィンナーづくり。

【たいにい・ほっくす】

相模大野9-6-18-2F



お詫び

■ここぞうたん 6号『紙上カフェ』の記事中、イタリアンガーデンさんが過去、人種差別的な対応をしていたかのように誤解させる記述がありました。イタリアンガーデンさんは、つねに一貫してすべてのお客様に同じ誠意で対応されています。不適切な記述について編集部は責任を認めるとともに、慎んでお詫び申し上げます。■今年度末を迎えるにあたり、今号で地域活性化事業交付金による発行は終了いたします。今年度、季刊を名乗りながら編集遅れから3号のみの発行となったこととお詫びします。

Information

■4月以降は、発行協力金を仰ぎながら、おもに協力店舗等による定点配布で発行してまいります。不定期刊行となりますが、ひきつづき、関心をお寄せいただき、情報等お寄せいただけますようお願い申し上げます。

ご意見、投稿、記者志望者はここぞうたん編集室へ

【TEL】042-745-0676 【FAX】042-742-0447
【E-mail】info@cocozutto.jp

『フリー情報紙 ここぞうたん』 [発行日]2014年3月25日

[発行者]



NPO法人ここぞっと
〒252-0303 相模大野9-6-18-2F
ここぞうたん編集室

ここぞうたんは、このまちぞっと暮らしたいと思う人、思ってもらいたい人のための情報紙となることを目指しています。
NPO法人ここぞっとは、まちづくりに参加し
同じ気持ちの市民や市民グループの中間支援に取り組んでいます。